



コミ・スクレター

今回の「コミ・スクレター」は、学校運営協議会の委員の皆様からのメッセージ「先生方に伝えたいこと、応援したいこと」や地域連携の進捗状況についてお伝えします。

地域の企業として

あおやま あきひこ 青山 昭彦 委員 (株式会社ギオン管理本部次長)

学校運営協議会の委員として、令和2年に就任させていただき今年で4年目になります。弊社は相模原に本社を構え、「物流・健康・環境」など幅広く事業展開をおこなっている総物流企業です。地域との共生を目指す企業として地域のスポーツ振興にも努めており、「SC相模原」のスポンサー企業として、地域の皆様とともにチームの夢を応援しております。

自身の職務の一つに障がい者雇用を2005年から担当しており、各地域の支援学校と連携を図りながら毎年定期的に採用をおこなっております。そのような中で、地元相模原の企業として「学校運営協議会」の活動を通して子供たちの成長を支えていきたいと思っております。また、地域と協働する取り組みの一つとして、ギオンの社員と相模原支援学校の生徒さんと一緒にSC相模原の試合の運営に、ボランティアとして参加し、応援する活動を昨年から実施することができました。今後もSC相模原の運営活動のサポートを相模原支援学校の児童・生徒のみなさんと続けていきたいと思っております。

連携プレーでつながりましょう！

やじま まさき 矢嶋 正貴 委員 (社会福祉法人すずらの会理事、ワークショップ・フレンド施設長)

‘82年から相模原市内で作業所を開設した社会福祉法人すずらの会は、’91年にはワークショップ・フレンドを開設し、現在は9か所の通所事業所や10か所のグループホームなど様々な障害福祉サービスを運営しています。相模原支援学校とは、設立当初からお互い連携をとりながら卒業生の進路先の1つとして、深いつながりを築いてきたと思います。

さて、この「連携」というキーワードが、地域においてはとても重要になってきます。「連携する」ことは、双方にメリットがあってはじめて成立し、「相手に何かしてもらう(してあげる)」ではなく、「双方が機能することで結果を出すこと」なのです。

学校運営協議会でも「学校と地域の連携」がテーマとなっており、まさに「連携」の意味をよく理解して関わらなければならないと思います。

一委員としては、これまで“連携プレー”をとってきた相模原支援学校とフレンドの実践を生かしていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

第2回学校運営協議会（第1回切れ目ない支援部会、第2回学校評価部会）実施日：8月2日（水）

今回は、麻溝公民館の大会議室を利用して、前半は切れ目ない支援部会を、後半は学校評価部会を行いました。切れ目ない支援部会では、コンセプトを確認してから、1学期の取組みについて意見交換がなされました。また学校評価部会では、切れ目ない支援部会の会議報告の後に、今年度の学校評価の流れと、次年度以降4年間の学校目標の検討スケジュールについて話し合いました。予定では、10月に中間評価を作成し、第3回学校評価部会を10月末に実施する予定で、これから4年間の取組と課題についての意見交換や、県教育委員会からのミッションを踏まえた学校目標を検討していきます。



第1回
切れ目ない
支援部会



第2回
学校評価
部会



相模原支援学校の切れ目ない支援部会とは

「切れ目ない支援部会」とは、就学前から卒業後に地域で生活をしていくところまでを、途切れることなく支援をしていき、障害のある方たちが地域で暮らしていくために何ができるかを考える部会です。切れ目ない支援部会の役割として、主体となって何かに取り組んでいくというよりは、現在すでに協働しながら取り組んでいることを全体としてつなげていきます。（令和3年度 第1回切れ目ない支援部会報告より）

- 取組を通して児童・生徒の何が育ったのかを整理し、一緒に取組む地域の方々と共有します。
- 様々な取組を地域の方々とする時に、地域の方々が一般の目線で児童・生徒と関わることは、とても重要であり、教員が付き添うと、学校の指導的な目線になってしまうので、教員が一歩引いて、地域の方々に児童・生徒との関わりをある程度預けることで、子どもたちの学びを豊かにします。

令和5年7月22日（土）にギオンスタジアムで、「SC相模原」と「FC今治」の試合が行われ、本校高等部の生徒7名がボランティアとして活動に参加しました。

活動は、昨年度同様にフラッグベアラーとブースボランティアの活動を行いました。ブースボランティアでは、飲み物やアイスの販売、射的コーナーを担当、ギオンの社員さんと接客について確認をしながら、来場者に対し丁寧に笑顔で接することができました。また、試合前にスタジアムの中に特別に入らせてもらい、選手たちがバスから降りて入るところで、直接、監督や選手にエールを送ることができました。その後SC相模原の社長さんへ手作りの応援メッセージを渡し、社長さんからも感謝の言葉がありました。

そして、急遽エスコートキッズ（選手と手をつないでピッチに入る児童）のメンバーが足りないので、だれか参加できないかと主催側から相談があり、生徒1名が参加し、フラッグベアラーと共に、多くの観客が見守る中、選手を誘導してピッチに入場する大役を果たすことができました。生徒からは、「とても緊張したが、普段活動できないことを体験することができてよかった」、「選手の皆さんからパワーをもらった」等の感想を聞くことができました。

また、見守っていた保護者の方からは、「とても良い経験をさせていただいた」、「どの仕事も本人なりに一生懸命だった」、「また機会があればチャレンジさせてあげたい」、「子どものがんばっている様子を見ることができ、とても良い一日を過ごすことができた」等の話を伺うことができました。



県は、共生社会の実現に向けた取組として、県立相模原公園において、誰もが一緒に遊べる遊具を備えたインクルーシブな広場、「ともいき広場」を整備するため、障がい当事者や支援者等をメンバーにしたワーキンググループを立ち上げました。本校もワーキンググループの一員として、計画の初期段階から参画し、関係機関と一緒に「ともいき広場」を作り上げていくことになりました。これから教職員及びPTAの皆さんの意見を集約しながら発信していきますので、よろしくお願ひします。なお、こうした進め方での公園の整備は、県立都市公園では初めてということです。

県立相模原公園「ともいき広場」づくりワーキンググループメンバー

- 特定非営利活動法人相模原市障害児者福祉団体連絡協議会(会長・理事)
- 特定非営利活動法人フュージョンコムかながわ県肢体不自由児協会(理事長)
- 県立相模原中央支援学校(地域連携担当)
- 県立相模原支援学校(PTA会長、支援連携GL)
- 県立相模原公園指定管理者(神奈川県公園協会・サカタのタネ・サカタのタネGSグループ)

この「地域ゴミ置き場マナー改善活動」について、進路支援班を中心に、学部会議、企画会議でご意見を伺い、先日開催された切れ目ない支援部会においても承認され、9月より具体的に取組んでいきたいと考えています。今後、各学部・学年において、紐づけることができる活動、授業を教えていただき、積極的に展開していくことができると考えていますので、よろしくお願いします。

令和5年度 地域ゴミ置き場マナー改善活動の流れ

- ①改善活動に参加する(各学年、担任)を募集し、塗り絵を渡す。
- ②オリエンテーション動画を見てから、授業や休み時間等でポスター(塗り絵)を作成する。
- ③作成したものを担当者へ提出する。
- ④高等部受注リサイクル班へラミネートと穴あけの依頼をする。
- ⑤受注リサイクル班からラミネートされたポスターが戻ってきたら、貼り付けに行く学部学年の調査を行う。
- ⑥貼り付けに行く学部学年が決まったら、自治会へ連絡し、候補日(雨天時の対応)、対応方法(手渡し、貼付け)について調整をする。最終的に調整した結果を自治会に伝え確約する。
- ⑦当日貼付けに行く学部学年は、事前に打ち合わせを担当と行う。
- ⑧当日、対応した内容については、別紙アンケートに記録する。
- ⑩事後学習で、簡単なふりかえりを行い、アンケートに感想を入れ、担当に提出する。



<麻溝地区原当麻自治会からのメッセージ>



本校では、相模原市南区と緑区（旧4町を除く）、愛川町にある保育園や幼稚園、小学校・中学校・高等学校などへ、大きく①電話相談、②巡回相談、③来校相談、④研修会の支援を行っています。

電話相談

電話で話を伺っています。

- ・関係機関職員
- ・保護者



巡回相談

小学校・中学校・高校等を訪問して、子どもたちの様子を観察し、先生方と一緒に支援方法について考えています。

※本人・保護者の方への直接支援は行っていません。



来校相談

電話で予約をいただいた後、相模原支援学校に来校していただき、お話を伺っています。

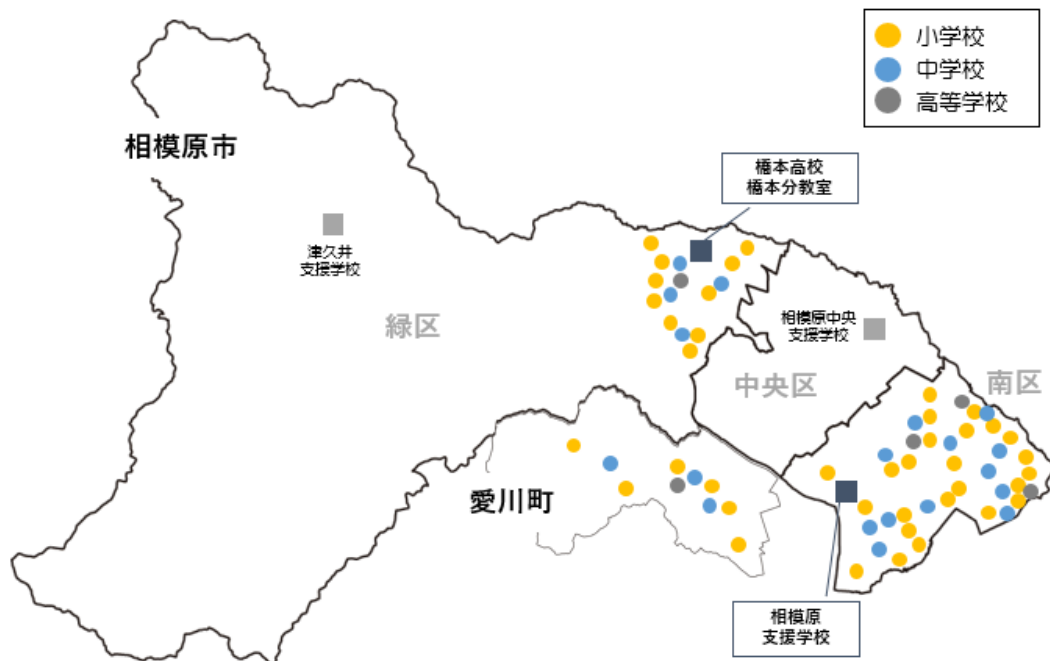
- ・関係機関職員
- ・保護者



研修会支援

研修会での講師を担っています。

- ・関係機関職員



<相模原市の小・中・高等学校> 9校

<愛川町の小・中学校> 3校

<その他> 1校

<ブロック内活用（自立活動教諭が、他ブロックの学校へ出向く）・研修> 8校

（令和5年8月現在）

5類に引き下げられ、学校教育活動の見直しを行うのに合わせて、学校ボランティアの運営についていくつか分かれていた規程等も運営マニュアルにまとめ、他校の内容も参考に整理をしました。

大きく以前と異なる点は、①ボランティア希望者が来られる日程に併せて活動を考えるのではなく、協力いただきたい活動を明確にしてからボランティアを募ることにしたこと。また②要望があれば、部活動や給食の配膳下膳に協力していただけるボランティアを募集し、教職員の業務軽減を図っていくところにあります。

ボランティア活動内容

	対象者	内容
1	授業ボランティア	学習活動における教員への協力及び児童・生徒への教員の教育活動への補助
2	行事ボランティア	部活動やボランティア活動等における教員への協力及び児童・生徒への支援 (サポーターは教員の補助をしながら直接的な指導を伴う)
	部活動ボランティア	
	部活動サポーター	
3	環境ボランティア	校内の除草や清掃活動、給食の配膳下膳、登下校等における教職員への協力
	給食ボランティア	
	登下校ボランティア	

7月19日(水)に、日頃学校前の交差点で見守りをいただいているボランティアの皆さん(ボランティアセンターあさみぞの方々)をお招きし、自力通学をしている本校生徒との交流会を開催しました。まず、ボランティアの皆さん(13名)には、校内をご案内し、高等部授業の様子を見学していただきました。笑顔で生徒たちの様子を見られたり、「みなさんイキイキとしていますね。」と感想を述べられたりしていました。その後交流会のため食堂へ。自己紹介の際にそれぞれお言葉をいただきました。生徒会長より感謝の言葉をお伝えし、プレゼンターの生徒から皆さんへ記念品のエコたわしをお渡ししました。ボランティアの皆さんからは、「生徒の皆さんの挨拶からエネルギーをもらっています」「皆さんが交通マナーを守ることが、地域の皆さんへの模範となっています」等の言葉をいただき、短い時間でしたが心温まる交流ができました。



4年ぶりの同窓会は、例年「海の日」で実施していたものを、授業中での実施を避け、最終週の7月30日（日）に開催されました。参加者は、昨年度卒業した方から35年前に卒業した方まで94名、保護者ご家族の皆様が25名、計119名が参加しました。日程は、前半が同窓会の総会を、後半はビンゴ大会で親睦を深めました。卒業生からは、「楽しかったので、これから毎年来ます」「会いたい先生がいなくて残念でした」「卒業してだいぶ経ちますが、学校のホームページや動画は見ています」等の声を聞くことができました。また、保護者の皆様からは、「年齢を重ねると機会も少なくなってしまうので、同窓会は有難いです」「だいぶ年齢の離れた卒業生も楽しめていて良かったです」「集団の中で子どもが参加できて成長を感じます」と好評でした。

今後は、会費を徴収しない方法や日程内容の精査等、世話人代表（卒業生の保護者）の皆様と相談しながら、負担の少ない同窓会の在り方を模索する予定です。



高等部1・2年の生徒と保護者を対象に「進路見学会」を、7月20日（木）に「相模クラーク学園」へ、21日（金）に「ワークショップフレンド」へ、25日（火）に「障害者支援センター松が丘園」へ、そして8月4日（金）に「ウエルハーツ小田急」で実施する予定です。

初めて福祉事業所や企業へ見学に行く生徒もあり、緊張する姿も見られましたが、説明を聞いてメモを取ったり、先輩たちが働いている姿を見たりして、卒業後の進路を考える機会となりました。なお、冬季休業中に再度高等部1・2年の生徒と保護者を対象に「進路見学会」を、3学期には小・中学部の保護者を対象にした見学会を予定しています。



（ワークショップフレンド）



（障害者支援センター松が丘園）